

会 議 名	第 2 回新城市公共施設再配置計画検討委員会		公 開
日 時	令和 7 年 3 月 2 6 日（水） 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 4 7 分	場 所	市役所本庁舎 4 階会議室
出席者	（委員） 杉木直、吉村輝彦※、伊藤雅朗、村松昂章、浅井泰博、垣内隆由、 河村晶子、河合好彦 ※オンライン出席		
	（事務局） 総務部：佐藤部長 資産管理課：野澤課長、浅井副課長、竹下係長、三輪主任、鈴木技師、 夏目主事、請井主事 （支援委託業者） ランドブレイン株式会社名古屋事務所：伊藤、谷口		
欠席者	片桐幹久、岡山ひろみ	傍聴者	なし
配布資料	第 2 回新城市公共施設再配置計画検討委員会 次第 資料 1 新城市公共施設再配置計画検討委員会について 資料 2 検討の進め方 資料 3 委員意見検討一覧表（第 1 回検討委員会の意見と対応） 資料 4 公共施設マネジメントにおける先進事例について 資料 5 新城市公共施設等総合管理計画の概要と改訂ポイント 資料 6 新城市公共施設個別施設計画（第 2 期）の概要と策定ポイント 資料 7 市民参加手法の実施計画（案）		

議題・議事・発言等（要点記録）

1 開会

（1）開会宣言

事務局	事務局から開会宣言を行った。
-----	----------------

2 議事

事務局	本委員会は原則公開である旨の説明を行った。 会議録を公開するため、本委員会の内容を録音する旨の説明を行った。 議題の進行を杉木委員長にお願いをした。
-----	--

（1）検討の進め方

事務局	資料 1 をもとに、事務局から「委員会の設置目的・役割」及び「推進検討体制」の説明を行った。 資料 2 をもとに、事務局から「検討の進め方（本日の位置づけ）」の説明を行った。
-----	--

<質疑応答>

委員	資料1について質問。シンポジウムやワークショップにおいて、地域協議会や地域振興事務所、若者議会等との連携・協力が重要だと考えているが、それら協議体の位置付けを教えて欲しい。
事務局	シンポジウムやワークショップだけでなく職員研修への参加のお願いを所管課である市民自治推進課から行っていく。

委員	資料1について質問。プロジェクトチームの役割について教えて欲しい。 また、資料2について質問。現況・課題の整理はどのようなとりまとめを考えているか教えてほしい。
事務局	プロジェクトチームの役割は検討中である。施設ではなく機能に着目した計画の改訂・策定を進めるうえで、適宜、所管課から人を集めて編成を行う。現在、現況・課題のとりまとめを進めており、次回の検討委員会で共有する。

委員	今後の動きを見据えて、各協議体との連携は形式的でなく丁寧なやりとりをする必要があると考えている。 また、資料2について質問。第1期と方向性が変わるため、第1期で達成できなかったことや課題、地域が主体的に動いていく必要がある点、施設ではなく機能を重視する点、公共施設だけでなく民間施設を含める点などを、第2期の構成に明記する必要があるのではないか。
委員	総合管理計画の「3. 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な考え方」にある「全体方針」のなかで整理した方が良いのではないか。
事務局	いただいた意見を踏まえ、資料の修正を試みる。

(2) 前回の振り返り

事務局	資料3をもとに、事務局から「第1回検討委員会の意見と対応」の状況について説明を行った。 資料4をもとに、事務局から「課題や失敗を中心とした事例」の紹介を行った。
-----	---

<質疑応答>

委員	質問ではなく感想になるが、地元住民の関心を高めていくこと・巻き込んでいくことが重要だと感じた。
事務局	多くの人にシンポジウムやワークショップに参加してもらえるよう声掛けをしている。委員の皆様にも協力をお願いしたい。 また、応募者数の状況について、シンポジウムは25名、ワークショップは地域を問わず12名である。

委員	資料２～４について質問。「市民が主体的に再配置を考え、実行する」という旨の話があったが、専門知識がある市民でないと引っ張っていくことは難しいのではないか。その方策は考えているのか。
事務局	必ずしも専門的な知識は必要ではないと考えている。 方策については、キックオフミーティングにおいて基本的な考え方を参加者に共有する予定である。また、シンポジウムやワークショップを通して、市民が主体的に動いていけるよう核となる人を育てていく方針である。 このあとの議題「（４）市民参加手法について」で改めて説明する。
委員	資料３について意見。学校への機能集約化は賛成である。例えば、新城市では「作手交流館」と「作手小学校」が複合文化施設となっており、機能集約による新しい学校づくりの良い検討材料になると考えている。 また、地域住民との合意形成もしっかりと検討してほしい。
事務局	学校複合化による安全面や教育面など留意する点はあるが、そのような点も合わせて引き続き検討を進めていきたい。
委員	シンポジウムやワークショップの参加者でメインとなる年齢層は考えているか。年齢制限を設けないのであれば、専門学校の学生やその保護者にも声掛けが可能ではないか。
事務局	特に若者・子育て世代の参加を希望している。 シンポジウムやワークショップの広報活動について、子ども園のネットワーク活用や民間の保育園への営業などを行っているが、若者からの応募が無い状況である。そのため、良いアイデアがあれば教えて欲しい。
委員	ポストに案内チラシを投函しただけでは、他の一般的なチラシと捨てられてしまう可能性があるため、目を通してもらえるための工夫を施すのはどうか。
委員	経験から、お互いに顔を知っている相手からの依頼であれば、参加率が高まると考えている。市が直接足を運んでお願いするのが良いのではないか。
委員	次回からは、議事と資料番号が対応する次第を作成してほしい。 資料３について、質問項目が分かるようにして欲しい。 また、第１期の振り返り・分析結果はいつ頃、共有してもらえるか。
事務局	次回の検討委員会には共有できるよう整理を進める。
委員	資料４について質問。「つまづきポイント」で挙げられた事例の２つは現在どのような状況か、また、事業が撤退した要因に対してどのような解決策が

	考えられるのか、新城市で活用できる考え方はあるか、分かる範囲で教えて欲しい。
事務局	現在の状況については確認できていないため、調べて分かる場合は改めて共有する。また、新城市に置き換えた場合については今後、整理を進める。
委員	資料4について質問。田原市の事例を参考にすると、新城市の学校プールの老朽化対策や維持管理の負担軽減などが考えられる。そのようなプールの共用化は、学校の要望と市民のニーズが合致したときに成功するのではないかと考えているが、どうか。
事務局	その通りであると考えている。 愛知県内でも同様の事例が増えている。それらのメリットに加え、室内プールであれば、猛暑から児童の安全性を確保できる。 一方で、子どもの移動や負担、民間事業側にとって共用化は事業として成立するのかなど、様々な課題があるため十分な検討が必要である。
(3) 新城市公共施設等総合管理計画の改訂及び新城市公共施設個別施設計画（第2期）策定について	
事務局	資料5・6をもとに、事務局から「新城市公共施設等総合管理計画の改訂及び新城市公共施設個別施設計画（第2期）策定の概要と改訂ポイント」の説明を行った。
<質疑応答>	
委員	人や公共施設を市街地に集約させるコンパクトシティの考え方が良いと考えている。また、新城市の状況を考えると、50年後には消滅都市になっているのではないかと考えている。そのような、将来の見通しが暗い状況でシンポジウムやワークショップを開催することに意味はあるのか。
事務局	市民が自分事として考え、動いていかなければ、そのような将来になる可能性は否定できない。しかし、新城市の未来を良くするために、シンポジウムやワークショップを通して、市民の皆様には自分事として新城市の将来を考えていただくきっかけになってほしい。
委員	資料6について質問。前回配布された個別施設計画では3章構成であるが、今回紹介されている改訂ポイントでは個別施設計画が4章構成となっている。最新の個別施設計画はいつ頃共有してもらえるのか。
事務局	現在、個別施設計画の更新を進めている。次回の検討委員会では素案を共有する予定である。

委員	現在配布されている資料及び説明だけでは、第1期の現状・課題に対する意見を発言することは難しい。どのタイミングで意見を出せばよいのか。
事務局	今回は、総合管理計画・個別施設計画の概要について説明を行い、委員の皆様基本的な考え方について理解していただいた。次回の検討委員会では、現況・課題を含め、両計画の素案を示す予定であるため、そのタイミングで意見をいただけるとありがたい。 また、個別施設計画について、内容によっては提供できるタイミングに差が生じるが、最終的には市の意見と市民の意見が合わさった計画を作り上げていく予定である。
委員	人口減少による財政のひっ迫や維持更新費用の30%削減目標は理解できる。しかし、一般市民への行政サービスや子どもたちへの教育サービスの低下だけは避けたいと考えている。
事務局	先ほど説明した「建物と機能を切り分ける」という前提から、仮に建物が無くなっても、機能は維持する内容となっている。また、地域に必要な機能は上手に残していく考えである。
委員	前回の検討委員会の資料3にあった地域との合意形成や民間活用の内容が、今回の改訂のポイントのなかに入っていないことが気になった。その内容は、シンポジウムにおいて市民に示すポイントになると考えているため、章構成の段階から検討をして欲しい。 また、総合計画や立地適正化計画など上位関連計画との整合性を取る必要があると考えているため、章構成のなかで「上位関連計画の整理」という内容を加えるべきではないか。
事務局	上位関連計画との整合性は課内で検討を進めている。
委員	個別施設計画のなかで、複合化をどのように記載していくか、とりまとめ方の検討が必要である。また、地域の団体の関わり方については、総合管理計画のなかで触れられていると良いのではないか。
事務局	複合化について、実際に達成は難しいかもしれないが、公共・民間それぞれが担う機能や施設ごとのロードマップを具体的に作成することを目標に進めていく予定である。
委員	上位関連計画のなかで、施設配置に関する部分を抜き出して整理する必要があるのではないか。市として目指す姿・方向性を示すべきではないか。
事務局	キックオフミーティングのなかで、参加者が上位関連計画との整合性を理解できるように時間を確保する。

(4) 市民参加手法について

事務局	資料7をもとに、事務局から「市民参加手法」の説明を行った。
＜質疑応答＞	
委員	ワークショップの参加者募集について、区長に相談し、区長から案内をしていただくという案がある。また、PTAや地域の中小企業からの参加も考えられる。 資料4について、クラウドファンディングでの成功例・失敗例はあるか。新城市でも可能性はあるのか。
事務局	財源確保としてクラウドファンディングを活用している例はあると考えている。適宜、情報提供していく。
委員	ワークショップに参加人数の規模と募集方法についてどう考えているか。 また、自主ワークショップでは何を行うのか、自主ワークショップのイメージについて教えて欲しい。
事務局	冒頭でも話した内容と同様に、これ以上のワークショップの参加者は足で稼いでいくしかないと考えている。1つの地区に対し10人以上の参加者を募ることを目指している。 また、自主ワークショップについて、ワークショップで話切れなかった内容について、市民が主体的に議論を進めてもらえればと考えている。
委員	組織をどう活用して、繋げていくのか検討をしていただきたい。 また、自主ワークショップができれば成功と考えている。そのような働きかけをしていく必要がある。
事務局	新城市では、作手の交流館を計画する際、自主ワークショップが何回か開催されていた。そのように市民自らが運営していく組織体が理想である。
委員	ワークショップは原則4回参加で計画されているが、人によってはハードルが高いと感じるのではないか。参加できなかった回があっても対応できるような仕組みがあると良いのではないか。例えば、駅前の施設で、ワークショップの経過を常設展示する形やSNSを活用した情報発信なども考えられる。 また、学校や地元企業を対象に、出前型のワークショップを開催できると良いのではないか。
事務局	参考にさせていただく。
委員	市内のネットワークを使って、各組織の代表を集めていただく方が良いのではないか。まずは、シンポジウムに参加していただく人を募集していくべ

	きと考えている。 シンポジウムのプログラムについて、「②新城市における公共施設の現状とこれから」を25分から15分に削減し、その分、パネルディスカッションや全体の質疑応答の時間を増やした方が良いのではないか。会場を巻き込んで議論ができる時間を確保できると良い。
事務局	いただいた意見をもとに検討を進める。

委員	シンポジウムを配信する予定はあるか。アーカイブ機能があれば、好きなタイミングで閲覧が可能になるのではないかな。
事務局	シンポジウムの映像配信について、録画配信かどうかも含めて検討する。

委員	予習するために、資料を委員会の2～3日前に共有してもらうことは可能かな。
事務局	そのように資料作成を進める方向で対応する。素案の状態でもL o G oチャット上で早い段階で共有するなど、対応を考えていく。

3 その他

(1) 今後の予定について

事務局	事務局から、今後の予定について説明を行った。 次回の検討委員会は6月中下旬、第4回は9月上中旬の開催を予定している。各回の日程調整はL o G oチャットを通して行う。
-----	--

4 閉会

事務局	事務局から閉会の挨拶を行った。
-----	------------------------

以上